

ハクサイ土壌病害虫の総合的病害虫管理(IPM)体系に向けた技術確立

研究期間	平成 22 年度～平成 24 年度
課題番号	2209
研究実施機関	(独)農業環境技術研究所 長野県野菜花き試験場 群馬県農業技術センター (大)九州大学 (独)農業・食品産業技術総合研究機構(北海道農業研究センター)
研究概要	<p>土壌病害の発生には、病原菌だけではなく、センチュウの発生等その他の要因も影響しており、その予測が困難です。</p> <p>このため、農業現場では予防的に農薬を施用することが多く、農薬に過度に依存しない総合的な土壌病害虫の防除方法(IPM)を確立するためには、その防除要否を判断する手法を確立する必要があります。</p> <p>そこで、本研究では、ハクサイで大きな問題となっているハクサイ黄化病とその助長要因と思われるキタネグサレセンチュウを対象として、パーティシリウム菌(黄化病の発生における病原菌)とキタネグサレセンチュウの発生量の影響を分析するとともに、防除時期や要否判断のための指標を検証しました。</p>
研究成果の概要	<p>キタネグサレセンチュウがハクサイ黄化病の発生助長要因であることや、ハクサイ黄化病菌とキタネグサレセンチュウの相関性(両方検出された圃場では発病が多く、また、どちらかが検出された場合には発病が中程度である等)を明らかにしました。</p> <p>また、防除時期や要否を判断するための指標として、PCR-DGGE法に加えて前作の発病度や土壌群を用いた発病予測方法を確立し、「ハクサイ黄化病の次世代土壌病害診断マニュアル」としてとりまとめました。</p>

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載